

●2005年記録会は8月21日(日)グリーンパーク(9:00~12:00)です!(ちびた号HLG)

●2005年記録会は9月18日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!(フルサイズ)

この号がお手元に届いたら、悶々として公園で小型機を飛ばしていた夏が終わって、すぐ秋のFFシーズン到来です。ヨタヨタのFF老人も9月になるとガゼン忙しくなるのが悩み?(喜び?)ですが、とにかく涼しくなれば元気100倍、田んぼかよいが始まります。

HLGは昔と較べて大型、小型機で投げ方が変わってしまいましたが、本格的にUHLGが飛ばせるのは9月からです。あの、馬鹿デカイUHLGが飛ばすと一気にストレス解消です。大型機小型機の格差が大きく、その分小型ではストレスが解消されず、これはUHLGの弊害と言えるでしょう。

今年5月のアルゼンチン大会で、F1Cの金川さんが優勝して、日本から初めてFF世界チャンピオンが誕生しました。せっかくですから、この盛りを当分持続させたいと願っています。まずは、チャンピオンを生んだ日本のFF界はもっと自信を持たねばなりません。

不思議なもので一度チャンピオンになると、外見は何も変わってはいなくても、その人の精神構造がサイボーグに変わるので。ですから、金川さんは2年後再び、銀行レース並で勝つでしょう。

我々も狭い日本の中で、せいぜい頑張って、みんなで模型飛行機を楽しみたい。そして新生・「強いFF日本」になって世界をアッと言わせましょう。

## 記録会報告

①2005年6月記録会/HLG

②2005年6月記録会/PLG、

③2005年7月記録会/HLG

④2005年7月記録会/PLG

⑤ランチーズ合宿報告

## お知らせ

⑥航空シンポジウム案内

⑦まったけ大会案内

⑧FF日本選手権競技会案内

## FFサロン

⑨5グラム級ライトプレーン講座1・石井英夫

⑩HGL主翼前縁の接着前処理・吉敷 潔

⑪せまい公園用ゴム動力機の研究・平尾

## 雑談天国

⑫後期高齢者の諸対策

## 編集後記

⑬

## ◆2005年6月記録会の結果(HLG/CLG)

### 6月HLG記録会報告

平尾・・・①

今年の瀬谷広場での記録会は今回の1回のみでした。天候は曇りでドロンとして空気は重い状態は良い方。但し、参加者は紙飛行機の大会とダブったらしく6名と今年最小でした。春山「朝青龍」他が居ないので、内心「しめた」と思って人がいても責められません。

競技はやや遅れて開始。東の風で風上の森が悪さをして、高度を取ってもなかなかマックスが出ない。右に流されると「禁断の畑」が怖いし、左に行くと道路を走る車が心配である。30秒程度で風下の駐車場の車に当たるし、それを越えると恐怖の藪が待っている。それでも、地元は慣れたものでガンガン飛ばして、見えない飛行機を見事に回収してくる。これはまさに新人類・瀬谷原人の登場である。とモタモタと考える内に・・・

この日は何か返りがヘンだったが、早撃ちの吉田選手が251秒を出して久しぶりに優勝。2位はこのところ何処にでも顔を出す・齋パパである。東大島、平城京、今日は瀬谷と黒い棺桶を抱えて渡り歩いて、このところ調子が良い。この日も244秒を出したし7、8月の記録

会では優勝か・・・。3位は仕事で相沢さんに振られた平尾の223秒。4位は見事な高度を取っていた大八木選手、しかし記録のバラツキが大きいのは、飛行機のせいそれとも心のせい？ 5位は、この日も元気・しかし美声が余り聞こえなかった池田選手、新作機の調整に手こずって205秒。6位は遅れてきた宮辺選手、モクモクと左に返すのだがいまひとつ高度が取れなかった。

競技に参加はしなかったものの、全体に白くなってやや太った富谷さんが久しぶりに登場し、計時を手伝ってくれました。「富谷カエリ」の復活も近いのでは・・・。木管吹きの大矢さんも野次馬兼計時で参加してくれましたが、この日はビールは控えめ。専門の計時が2名もいるのですから、この日の競技は成績が良くないとおかしいのですが、そうでないのは、どこかおかしいのですよ。

その他、岩田、坂巻、菅原、平井の各氏がグライダーやミニクープ、ライトプレーン等を飛ばして、記録会の邪魔をしてくれていました。しかし賑やかでイイ。感謝！！

### 6月HLG記録・6月19日瀬谷広場・曇り、気温28度・南東1~3m/S、60秒MAX、5/10合計

| 順位 | 選手名 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | 合計  | F1 | F2 | F3 | 総計  |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 1  | 吉田  | 46 | 33 | 32 | 40 | 54 | 46 | 25 | 59 | 46 | 36  | 251 |    |    |    | 251 |
| 2  | 斉藤  | 30 | 39 | 60 | 29 | 33 | 31 | 31 | 46 | 23 | 42  | 247 |    |    |    | 247 |
| 3  | 平尾  | 31 | 43 | 55 | 36 | 46 | 37 | 42 | 14 |    |     | 223 |    |    |    | 223 |
| 4  | 大八木 | 44 | 37 | 25 | 49 | 49 | 31 | 23 | 15 | 09 | 35  | 214 |    |    |    | 214 |
| 5  | 池田  | 19 | 38 | 26 | 19 | 21 | 35 | 53 | 43 | 29 | 36  | 205 |    |    |    | 205 |
| 6  | 宮辺  | 22 | 33 | 0  | 18 | 10 | 43 | 21 | 10 | 29 | 23  | 150 |    |    |    | 150 |

### 6月PLG記録会報告

佐藤、平尾・・・②

1年振りの瀬谷での記録会でした。地元の紙飛行機メンバーの参加が多く(6名)トータル12名で盛大でした。くもり空で比較的コンディションが良かったため記録的にはまあ〜の状況でした。

結果は地元の雨宮さん(紙)と常勝の河田さんとの決勝飛行となり、河田さんの300+51秒で優勝。2位は雨宮さんで300+42秒でした。3位はベテランの石井(英)さん(293秒)でした。4位は健闘した石引さん(289秒)。以下省略。(佐藤)

不調との噂のあった戸谷さんが、大量の缶コーヒーとバナナの差入れを持って元気に登場。何か悪い事をしたのかなと思ったが、そうでは無さそう。自分への反省でかすかね。写真では、先々月の優勝・ランチャーズカップを持って仁王立ち、ま・差し入れは美味しく頂きました。

ここ3回ほど、紙飛行機のグループとからんで競技をしています。すごく小さな紙飛行機を見えない程上げて、過去から較べると数段腕が上がっている事が解ります。手投げも含めてですが、紙飛行機が立派な文化として、成立していると感じます。作るのは楽ですが、使いこなしの難しい材料を、ここまで使いこなす根性には脱帽です。それから見るとバルサ族はまだまだ人間が出来ていない・・・。いやいや、人間が出来ているから紙には手を出さない・・・。紙様、神様。

6月PLG記録・6月19日瀬谷広場・曇り、気温28度・南東の風1~3m/S、60秒MAX、5/10投

| 順位 | 選手名 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | 合計  | F1 | F2 | F3 | 総計  |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 1  | 河田  | 44 | 60 | 60 | 60 | 60 | 60 |    |    |    |     | 300 | 46 | 51 |    | 351 |
| 2  | 雨宮  | 60 | 55 | 59 | 56 | 60 | 60 | 57 | 45 | 60 | 60  | 300 | 42 | 33 |    | 342 |
| 3  | 石井英 | 44 | 45 | 60 | 56 | 56 | 60 | 57 | 60 | 56 | 05  | 293 |    |    |    | 293 |
| 4  | 石引  | 48 | 30 | 60 | 51 | 38 | 33 | 58 | 60 | 60 | 42  | 289 |    |    |    | 289 |
| 5  | 中村  | 07 | 26 | 44 | 35 | 42 | 29 | 33 | 60 | 56 | 60  | 262 |    |    |    | 262 |
| 6  | 西田  | 51 | 51 | 47 | 46 | 51 | 35 | 37 | 60 | 40 | 43  | 260 |    |    |    | 260 |
| 7  | 荒井  | 32 | 60 | 38 | 30 | 31 | 48 | 53 | 39 | 55 | 32  | 255 |    |    |    | 255 |
| 8  | 吉岡  | 33 | 47 | 60 | 46 | 13 | 19 | 15 | 35 | 14 | 37  | 225 |    |    |    | 225 |
| 9  | 佐藤  | 04 | 13 | 40 | 55 | 05 | 15 | 18 | 31 | 45 | 30  | 201 |    |    |    | 201 |
| 10 | 吉本  | 48 | 26 | 35 | 36 | 33 | 22 |    |    |    |     | 178 |    |    |    | 178 |
| 11 | 井上  | 21 | 03 | 41 | 06 | 32 | 26 | 03 | 04 | 28 | 20  | 148 |    |    |    | 148 |
| 12 | 北沢  | 07 | 06 | 14 | 23 | 14 | 19 | 24 | 23 | 18 | 26  | 115 |    |    |    | 115 |

◆2005年7月記録会の結果 (HLG/CLG)

7月HLG記録会報告

平尾・・・③

1年振りのグリーンパークです。この日は運動場部分が工事中で柵で囲われていました。その分、駐車場は空いていました。コンディションは最高で、暑いのは仕方ないとして風がほとんど無く素晴らしいコンディション。この日も紙飛行機とダブってすごい人(紙だけで50名か!!!)、飛ばすのが怖いくらいの人密度でしたが、紙のHLGは15g以上はあるので安全性ではパーク用HLG(バルサの13g以下)が上です。田舎の千葉幕張公園からみると、人の多さはホントにうらやましい。

9時からボチボチと競技開始、早撃ちの吉田選手を筆頭に10時には終わっている人もいて、ペースはバラバラ。夏は暑いので、今後とも体力に相談して倒れない様にやってください。

成績の方は久しぶりに井村大人の優勝、わりとあっさりと勝ってしまいました。追いつがる小川(2位)、菅野(3位)両選手のネバリが足りない。1秒落ちと2秒落ちはもったいないではないか……。小川選手のヒコーキは設計が新しい分ちびた号より高性能ですし、菅野選手のヒコーキは軽量・ロングスパンでパワーがないと上がらなそうだが良く浮きそう。この機体を持ってしても勝てないところが面白い。ちびた号は競技用機として実に良く出来ているのです。

4位に今多忙の吉田選手・188秒、5位の平林(弟)選手は紙での参加、いまひとつヒコーキが不調でした。6位は三俣選手、まだヒコーキに燃えていない。7位は投げが決まらなかった大八木選手、エンジンは良いのに……。めずらしい所では、関西から園田選手が新幹線で来襲、しかし、153秒の8位は不本意……。このところ復活の増田選手は紙と掛け持ちで気もそぞろで最下位。競技に不参加でしたが戸谷さんが奥様の監視付きで来園、元気そうでなにより。参加者13人中150秒以上が9名の70%は立派な成績でしょう。

これくらい小型になると翼端投げのメリットはほとんど無く、早く振ると腕がしびれるだけで、ヒコーキはそんなに上がらない。そろそろパチンコに転向するかと迷うこの頃です。

7月HLG記録 7月17日グリーンパーク 晴32度 南東の風1~2m/s 40秒MAX

| 順位 | 選手名   | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | 合計  | 総計  |
|----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 1  | 井村    | 40 | 40 | 40 | 39 | 34 | 31 | 40 | 40 |    |     | 200 | 200 |
| 2  | 小川    | 20 | 38 | 40 | 20 | 40 | 24 | 40 | 40 | 25 | 18  | 198 | 198 |
| 3  | 菅野    | 33 | 22 | 33 | 40 | 23 | 40 | 40 | 19 | 37 | 40  | 197 | 197 |
| 4  | 吉田利徳  | 23 | 35 | 31 | 39 | 40 | 34 | 27 | 40 | 27 | 32  | 188 | 188 |
| 5  | 平林久之助 | 05 | 40 | 35 | 32 | 25 | 09 | 38 | 12 | 10 | 22  | 170 | 170 |
| 6  | 三俣 豊  | 21 | 40 | 27 | 33 | 20 | 30 | 18 | 18 | 38 | 24  | 168 | 168 |
| 7  | 大八木   | 14 | 32 | 09 | 40 | 10 | 40 | 23 | 21 | 28 | 25  | 165 | 165 |
| 8  | 園田    | 29 | 30 | 23 | 32 | 11 | 23 | 32 | 30 | 25 | 03  | 153 | 153 |
| 9  | 三田裕一  | 09 | 40 | 12 | 29 | 04 | 23 | 19 | 25 | 23 | 22  | 140 | 140 |
| 10 | 平尾寿康  | 20 | 28 | 24 | 19 | 30 | 14 | 26 | 19 | 17 | 02  | 128 | 128 |
| 11 | 大島    | 03 | 26 | 06 | 04 | 30 | 19 | 10 | 24 | 19 | 14  | 118 | 118 |
| 12 | 宮辺    | 15 | 19 | 11 | 17 | 17 | 07 | 25 | 13 | 28 | 13  | 106 | 106 |
| 13 | 増田仁嗣  | 26 | 16 | 18 | 23 | 07 | 18 |    |    |    |     | 101 | 101 |

7月PLG記録会報告・

佐藤、平尾・・・④

梅雨明け間近なのか、比較的天候も良く、曇り空でしたが風もおだやか、ベストコンディションでした。結果は4人のフライオフとなりましたが、石引さんが初優勝(200+60+90秒)、2位は常勝の河田さん(200+60+66秒)、3位は粕谷さん(200+54秒)、4位は倉田さん(200+43秒)、5位金子さん。以下省略。追記:今回初陣の五十嵐さんは169秒でしたが、次回に期待したいと思います。

この日の石引さんは絶好調、5投5マックス、しかし40秒マックスだと楽すぎか。フライオフは1ラウンド目60秒マックス、2ラウンド目90秒マックスで行いました。全体では吉岡さんが最下位、ズルズル引っぱるグライダーと違ってパチンコは度胸が入るので無理かなあ・・・。しかし、成績は147秒ですから立派なもの。無尾翼の佐藤さんは何度も機体が樹林に接近してハラハラ。HLGと違って不思議にも紙の方からの参加は少なかったようです。ゴム制限が異なるのからか・・・。

7月記録PLG 7月17日グリーンパーク 晴32度、南東の風1~2m/S 40秒MAX

| 順位 | 選手名 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | R10 | 合計  | F1 | F2 | 合計  |
|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|-----|
| 1  | 石引  | 40 | 40 | 40 | 40 | 40 |    |    |    |    |     | 200 | 60 | 90 | 350 |
| 2  | 河田  | 40 | 40 | 40 | 35 | 40 | 37 | 40 |    |    |     | 200 | 60 | 66 | 326 |
| 3  | 粕谷  | 40 | 40 | 40 | 40 | 28 | 22 | 40 |    |    |     | 200 | 54 |    | 254 |
| 4  | 倉田  | 40 | 33 | 40 | 28 | 40 | 27 | 40 | 26 | 30 | 40  | 200 | 43 |    | 243 |
| 5  | 金子  | 20 | 40 | 39 | 33 | 28 | 28 | 22 | 27 | 40 | 33  | 185 |    |    | 185 |
| 6  | 小嶋  | 37 | 29 | 28 | 29 | 31 | 33 | 40 | 29 | 29 | 40  | 181 |    |    | 181 |
| 7  | 乙川  | 30 | 40 | 32 | 28 | 40 | 05 | 33 | 27 | 12 | 20  | 175 |    |    | 175 |
| 8  | 五十嵐 | 15 | 40 | 28 | 31 | 18 | 27 | 30 | 24 | 28 | 40  | 169 |    |    | 169 |
| 9  | 佐藤  | 27 | 22 | 15 | 27 | 22 | 40 | 26 | 40 | 27 | 25  | 161 |    |    | 161 |
| 10 | 吉岡  | 09 | 13 | 18 | 18 | 31 | 20 | 34 | 20 | 40 | 22  | 147 |    |    | 147 |

## ◆・ランチャーズ合宿の報告

平尾・・・⑤

今回の合宿は自称・新潟ランチャーズの尽力で現地の協力が得られるとの事で、初めて裏日本に出掛けて、新潟県阿賀野市にある工業団地予定地(広さ1.5km×1.0km)で実施しました。

「ランチャーズ合宿」は夏のKFC・富士川大会が無くなってから、夏季の「飛ばせないストレス症候群」解消と親睦を兼ねて始まったイベントです。調べてみると富士川大会は1987年が最後ですので、1989年夏が第1回合宿で、今回で17回目になります。皆様のおかげで、これまで事故もなく無事に続けてこれらたことを感謝します。

**\*場所** 新潟県阿賀野市は昨年16年4月に出来たばかりの市で、新潟市の東南部に隣接し、その南側は山に接しています。新潟平野は川が多いので移動する場合は橋の位置確認が必須です。東京からは関越自動車道で約300kmですが、中間位置に渋滞しそうな大きな都市はなく、時間的には有利だと思っていましたが、これが大外れ。中部、関西からも、千葉の干潟と違って北陸自動車道を通れば東京を通らない分便利でしょう。宿舎施設は飛行場近く(車で5分)の阿賀野市安田地区の旅館(ホテル棟と和風別館あり)でしたが、今回は目新しからか例年より多くの21名が参加してくれて盛会でした。

**\*土曜日は** この日の報告会は菅原さんの「モンゴルのFF大会」と和田さんの「アルゼンチン世界選・最新のF1Aについて」で、幻灯を使つての報告はなかなか面白く、一部考えさせられる事もあって聞き入ってしまいました。

モンゴル(海拔千メートル)は予想よりもFF環境がよく、費用も安く上がりそうです。1週間宿泊費込みで15万円程度で収まれば、次回の参加者が増えるのではないのでしょうか。パティオに泊まるか、ホテルにするか意見が別れそう。ガンバレ・ガンゾクック。

世界ではF1Aは猛烈に複雑化していて、離脱機構の改良(1度ピンが抜けても、やめる気になるとフックが外れない様に戻る)、離脱後の姿勢制御(ラダーとウイグラーの複数操作)の複雑化で4個のサーボモーターを搭載して、まるでロボット化しています。和田さんの意見では、最新型が出てくると、スタンダード型でフライオフには残れてもまず勝てないだろうという事である。人間のミスや突発的な出来事をシステムでカバーしようと言う機構は、そろそろアマチュアの域を超えていると思うが。

発表会の後、ロートルは寝てしまったものの、その後も12時頃までワイワイと親睦会が続いていました。今回は昔の富士川のホテル・ベロニックの再現で、60畳敷きの大部屋に雑魚寝となり、修学旅行を思い出しました。次回は、これが良いと言う人と、小部屋にしてよという意見等あると思いますので、考慮して、計画したいと思います。

**\*日曜日は** 翌日は、早朝4時に起きて5時から競技会を3ラウンドで実施。ルールは①機体は自由、②5秒・ラン(走る)で手持ち(投げない)発航、③滞空時間競技でスタート。

初めは、F1Aが断然有利と見られていましたが、結果はUHLGの伊東選手が圧倒的な記録28秒強で優勝しました。2位はダークボス・F1Bの岩田選手、3位に本命視されていたF1Aの和田選手の19秒強となりました。

競技会の後は、各自思い思いにヒコーキを飛ばして、憂さを晴らしたり、機体を壊してストレスを溜めたり好きずき。小堀さんは有名な「竹ひごグライダー」をフワリフワリと飛ばし、名古屋の伊東さん、相沢会長をはじめランチャーズのメンバーはHLGの投げまくり。和田さんはF1Aをことごとくサーマルに入れて凄まじい高度に上げて、ついに1機は池ポチャ、見学者が見守る中、準備してくれていたゴムボートで回収。新潟と親しい関沢さんは地元の細海さんとF1Jを調整していました。

ゴム屋のグループでは、真夏のうさ晴らしをマジメにやっていたのは前田、浅沼、岩田、菅原の4氏、その後、岩田、井沢両氏はF1Hを飛ばして楽しんでいました。

ランチャーズのグライダー屋・池田、大八木、大矢の各氏も熱心に走っていましたが、締めとして大矢さんはF1Aを6000ボルトの電柱に降ろして焦ってしまいました。しかし、大八木

氏と地元の協力で無事回収した模様。その他は、何を飛ばしていたか記憶にない坂巻さん、黙々と飲んでいた吉田、田久保、谷塚さん達とそれぞれ楽しんでいました。

突如として、C F F C の掲示板で名前は知っていた新潟魚沼の林さんが飛び入り参加し、中部の西沢さんが譲ってくれたというタイガー製のキット「ひばり」を持参。ランチャーズみんなはその機体を見てびっくり。キットはまさに値打ち物でプレミア付きでしょうが、使っているバルサがすごい。近年見た事がないバルサで、色は真っ黒で井村さんが「これラワンか」と言ったぐらい。重くてよく狂う素晴らしい「くそAカット」で全員で、これでは「飛ばんわなー」と感心しました。それでもいじり廻して、ソコソコとぶようになりました。材料の話は林さんには関係が無い事で、これを譲った西沢さんには「ランチャーズ懲罰」として、みんなで「1年間のH L G 競技参加」を科す事に決めました。どうです・・・。

**\*飛行場** 今回の敷地はほぼ平らですが、公園用地の一部が20m程の小山になっていて車で登れて、ここから全敷地の見晴らしがききます。又、敷地内に水洗トイレが2ヶ所あり、1ヶ所は一般道に面しているので汚い。もう1ヶ所は調整地に面していて綺麗で身障者用もあって合格です。

もし、ここで何らかの競技会をやるのであればプラス面として、①トイレあり、②地面が草原で走れる事、③まずまずの広さ、④宿泊施設・デイリーストアが近い、⑤地元が協力的(堂々とやれる)等々。

欠点としては、①低木がアチコチにある、②敷地内を道路が通っていてたまに車が通る、③地面が固く、所々石が露出している等々です。全体としては、練習で飛ばすには完全合格です。

この日は地元で、ご協力頂いた阿賀野市企画政策課吉野室長が、わざわざ見学にお見えになり、しかもキッチリとヒヤリングをされて当方恐縮しました。長身の方で、出来たての市のやる気と好印象を感じ取りました。ぜひ、次回もやりたいですね。

**\*帰り** 帰りは、前日の大渋滞にこりて、磐越・東北自動車道経由で午前11時に安田インターを出発、幸いにもガラガラで途中2回ほど休憩して、柏で前田さんを降ろして夕方6時に自宅でした。距離は東京練馬-安田と安田-岩槻はほぼ同距離で、値段は練馬が7,400円、浦和が7,050円とほぼ同額でした。参考までに調べてみると、常磐道周りでもほぼ同額で7,400円でした。行きは9時間かかったので、次回は反省して早朝の出発を必須とします。

## お知らせ

### ● 2005年航空シンポジウムの案内

1. 開催日時 2005年8月20日(土) 午後1時-5時頃まで
2. 開催場所 航空会館 502号室 (港区新橋1-18-1)
3. テーマ ①バルサ革命(大村) ②05年FF世界選報告(金川)  
③バルサ材(木村バルサ)
4. その他 参加費・無料

### ● 2005年たったけ(中部FF秋期)大会案内

- 開催日時 2005年9月25日(日) 午前8時30分から  
開催場所 鈴鹿市池田たんぼ  
種目 F1G、F1H、F1J、HLG、小型混合級  
その他 参加費等は別途、恒例のFFフリーマーケット開催予定、

● 平成17年度模型航空フリーフライト 国際級日本選手権競技会案内

|        |   |
|--------|---|
| 主催     | 日本模型航空連盟（公認 日本航空協会）   |
| 期日     | 平成17（2005）年11月4日（金）5日（土）6日（日）   |
| 会場     | 千葉県香取郡干潟町万歳   |
| 種目     | フリーフライト F1A, F1B, F1C   |
| 規定     | FAI スポーツ規定に準拠   |
| 参加資格   | 日本国籍を有し、選手権期間中有効の模型飛行士登録者および日本航空協会が発行する当年度有効のFAI スポーティングライセンスを有する外国人  |
| 選手権委員長 | 日本模型航空連盟 会長 東 昭   |
| 競技委員長  | FF委員会 委員 吉田 利徳  |
| 競技副委員長 | FF委員会 委員 坂巻 敏雄（F1A担当）<br>FF委員会 委員 谷塚 正実（F1B担当）<br>FF委員会 委員 津田 晃英（F1C担当）   |
| 陪審員    | 日本模型航空連盟 理事長 落合一夫   |
| 競技役員   | 会 員   |
| 申込方法   | 所定の参加申込書（郵便振替用紙）に必要事項を記入し期日までに参加費を振り込む事。なお、一旦納入した参加費は理由の如何を問わず返却しない。申し込みは日本模型航空連盟宛。不明な点は各クラブ宛ご連絡下さい。  |
| 締切日    | 平成17（2005）年9月9日（金）（消印有効）  |
| 参加費    | 20,000円（1種目）（2泊）  |
| 同伴者    | 同伴者の宿泊を斡旋する。1泊に付8,000円を参加費に加算し申し込み  |
| 食事     | 第一日夕食および第二日夕食は参加費に含まれる。同伴者については一泊につき一回の夕食を含む。期間中の夕食以外の食事は各自で調達すること。   |
| 参加受理   | 確実に参加申し込みを行った会員には、参加受理書を送付する。選手は所定の受付時間内に本部（宿舎）に参加受理書、機体仕様書を提出し受付を完了すること。   |
| 受付     | 11月4日（金）17時～19時の時間内に宿舎本部に必要書類を提出すること。都合により時間内に到着出来ない場合は、予め連絡すること。   |
| 機体検査   | 主催者は機体仕様書に基づき、機体の仕様確認と模型飛行士登録番号の記入を確認する。原則として競技前の機体検査は行わない。ただし、F1Aについては曳航索、F1Bについてはゴム重量について検査を行うことがある。選手が希望した場合には機体検査を行う。競技中、随時抜き取り検査を行う。この検査で不合格の場合には、それ以前の記録は全て無効となる。 |
| 選手の責務  | 選手は他の種目の役員となる事。不可能な場合には代理人を立て、参加申込書に記入の事。役員としての業務を怠った場合、および本要綱に正当な理由なく違反した場合には当該選手の競技記録の一部または全部を取り消す事がある。   |
| 競技方法   | 競技は2004年発効のFAI スポーツ規定に準拠した公式飛行と決勝飛行を行い、選手権者および順位を決定する。天候などの状況によって競技を延期または中止することがある。延期の場合は追って発表する。   |
| 損害賠償   | 人畜、土地、建物その他の物件に対し競技その他により損害を与え賠償が必要な場合は、当該選手が全額を負担する。   |
| 宿 舎    | 国民宿舎飯岡荘 千葉県海上郡飯岡町荻園 1437 0479-57-2661   |

夫

**3. 「性能のカベ」 3ランク分けと対策コメント**

「性能のカベ」3ランクは次の通りです。

- A、「初級のカベ」 上昇高度50メートル、滞空90秒。
- B、「中級のカベ」 上昇高度65メートル、滞空120秒。
- C、「上級のカベ」 上昇高度75メートル、滞空150秒。

異論の出そうなことは承知していますが、話の進め方の都合上、大まかな目安としてこの3ランク分けが必要なのだと理解して下さい。当然のことながら、上昇・下降の気流の関与はなし、基本性能に限っての話です。

**<<性能のカベ>> 攻略その1****A 「初級性能」 上昇高度50メートル、滞空90秒について**

正札付きの初級者レベルはめでたく卒業というのが、この性能のカベクリヤーにあたります、初級でも高度50メートルです。この性能でなぜ初級かといいますと、最近のゴムは優秀で、むかしのゴムでは難しかった上昇50メートルが、いまのゴムなら、さして難事ではなくなったという事情があります。それに、模型ヒコーキ全般の技術レベルが上がっているという時代背景もありますし。このレベルの性能ですと、技術的にこれをやらねば、みたいなしばりは存在しません。機体寸法、デザインその他何でもありで、好きにやれます。プロペラも、自作、市販品どちらも可です。なりゆきまかせの工作でやって、機体重量が重くなりすぎても困りますが、ゴムを除いた本体重量の目安として、25グラムを超えなければOKでしょう。

本当のことをいえば、上昇の50メートルよりも滞空の90秒のほうが難物で、滑空沈下を甘くみてかかるとやられます。もともと、プロペラ空転方式自体が滑空沈下にハンデを負っていますから、さらにこの上の不良要素、たとえばゴム束ブランブランの滑空スタイルだったりすると、もうねばりもこらえ性もないような滑空沈下になります。「初級のカベ」クリヤーは、次の「中級のカベ」へ向う通過点です。アドバイスはと問われれば1点のみ。竹ヒゴ、片面貼りのライトプレーン翼は温度・湿度の変化におそろしく敏感で狂いやすく、飛ぶ性能が良いの悪いのをいう以前に、毎回同じパターンで飛ぶ信頼性が大事ですよ、そのことです。

**<<性能のカベ>> 攻略その2****B 「中級性能」 上昇高度65メートル、滞空120秒について**

上昇65メートルといえば、「オウ上がったナ！」と見上げる仲間の誰からもホメられる高度ですし、滞空120秒の性能があれば、どんな競技だってこわいものなしの実力といえます。

ですが、この性能レベルをもってしてもまだ中級というわけは、ゴム5グラム級機本来の性能ポテンシャルはもっと上と見られるからで、この性能で満足するも良しですが、この種目が本当に面白くなるのはこの先です。

**1. 機体寸法、機体重量、そして飛ぶ性能との相関について**

中級性能狙いともなれば技術課題がいろいろ出てきますが、最初にきめなければいけないのがどの大きさでやるかです。ゴムは5グラム、ゆえになにがなんでも軽い勝ちとばかりに、小型軽量指向でつつ走るか、それとも多少の重量増加には目をつぶって空力重視の大き目サイズで行くか、あるいは無難な中どころのサイズでまとめるか、やる人のセンスで手法が分かれるところです。

筆者石井は多少重くなってもの空力派サイドに属しますが、世の中はいろいろと申しますか、



専門的ライトプレーンモデラーさんのなかには、おそるべき軽量信仰の持ち主もおられます。なんと本体重量10グラムに近いあたりが常用とかの話で、ある会合の席で石井さんはなゼルールで許されている軽量追及をやらないのか、とお叱りをうけたことがあります。ルールで許されている軽量追及をとことんやって、性能どこまで行けるものか、小生そちら方面に経験がないので、なんともコメントできません。ですが小型軽量指向なるものは、全備重量に対する搭載ゴム重量比優位というニュートン力学上の利はあっても、小型機ゆえの空力的ロスが大きすぎ、ゴム5グラムライトプレーンの性能ポテンシャルにはマッチしにくいように思われるのですが、さてどうですか。

空力派筆者の言い分を要約すれば次のようになります。かりに性能目標を滞空120秒とした場合、ゴム束何条であれ高度を取りやすいモーターランは40秒前後ですから、残りの80秒ほどは滑空で稼がなければなりません。空転プロペラ機での滑空80秒はなかなか大変で、良好な滑空沈下のためには然るべき機体サイズが必要と、このように話は順に行くわけです。

もうひとつ、限度を超えた小型軽量モデルの不幸は、ゴム束6条モデル、4条モデルどちらにせよ、合理的なスタイルにはまとまらない不都合な事情がついてまわります。6条モデルのほうですと、主翼スパン寸法とプロペラ径寸法が近接しすぎるために、相互に反撥しあってまとまらな上昇パターンが得られませんし、4条モデルの方は長いゴム束が小型機の短い胴体には姿良く装着できません。さすれば機体寸法はどのあたりのサイズが好適か？もとより全長については50センチスティック限度いっぱいという前提ですから、機体寸法といえ一義的に主翼スパンのことにになります。

石井流儀で考える主翼スパン寸法は、初、中、上、どのクラスにおいても仕上がり寸法で45～50センチが妥当なところとみています。45センチと50センチでは1割ほど違いますが、翼面積はほぼ同一とします。つまりアスペクト比が違うということです。

ゴムを除いた本体重量は、スパン45センチ機で20グラムまで、スパン50センチ機で22グラムまでとします。ロングスパン機が重量的に許容度があるのは、ハイアスペクト翼の空力特性がプラスに働いて、重量増加のマイナス分を埋めるためです。

## 2. 翼問題の基本ポイント

あとで空力問題としてまとめて扱う予定なので、ここでは中級性能を狙う翼問題の基本ポイントだけにとどめます。ハッキリ言い切ってしまうのですが、ライトプレーン翼平面形デザインに、性能をどうこうする力はありません。竹ヒゴ片面貼り翼というのはそういうキャラクターなので、趣味でやるなら別ですが、性能を求めてあれこれ翼デザインに凝るのはムダな骨折りです。ダエン翼でやるか矩形翼でやるかも好みの問題にすぎず、実質性能に関係なし。翼重量を軽く仕上げたいつもりでか、翼小骨(リブ)の数をケチる例をよく見かけますが、これは効果が逆で、むしろ翼小骨はたくさん入れたほうが軽量に仕上がります。リブ間隔がつまる効果で細身・軽量のリブでも強度が足りるからです。そのうえ、リブ間の凹みが減って空力的にプラスはいうまでもないでしょう。

主翼パイロンは上昇時の安定に備えて適度な高さ(2～3センチ)があったほうが良いようです。それから上反角もなるべく大き目に。とくに上昇中段のヨロケに対しては、タテにもヨコにも抵抗力がないことにはしのぎきれません。

紙貼りは、見た目を気にしてピンと貼るより、シワ貼りが効果的です。温度・湿度の変化に対して狂い予防になるだけでなく、適度のシワ貼りは乱流効果がプラスに働いて、たぶん性能にも好結果をもたらすものと考えられます。このへんがライトプレーンクラスのレイノルズ数空域の微妙なところで、古いむかしの記憶になりますが、ライトプレーンよりちょっとだけ大きいレイノルズ数40,000ぐらいの実験データで、シワ貼り翼とツルツル翼では、揚抗比特性、失速特性ともにシワ張り翼有利と出ているのを見たとあります。

## 3. 自作プロペラと市販プロペラ問題

性能のことを考えれば、これはハッキリ自作プロペラがおすすめです。市販品がダメということではなくて、機体特性にマッチしたものを選べるかどうかの問題です。プラスチック製多量生産多量販売の市販プロペラは用途からして汎用ですから、効率重視の競技機目的には不向きです。あまりの低ピッチ比、幅広ブレードにすぎるのが気に入りません。

ところが、こうした不満はゴム6条モデルを市販プロペラでやる場合のこととして、ゴム4条モデル用となると諸事情が一転します。ゴム束4条モデルにおいては市販プロペラの低ピッチ比、幅広ブレードがさほど悪材料にはなりません。理由の説明は省きますが、市販プロペラ有効活用の際は、本講座では場外のゴム4条システムの方面ではなかろうかと考えます。ただ、これをやる場合のご注意をひとつ。長い4条ゴム束に見合った十分なフック間隔を与えること。これをやらないゴム束ブランブランの滑空スタイルは、風流ではあるかも知れませんが、空力的に論外としたものです。

自作プロペラ用削り出しブロックは、古くから知られたマックスウェル純正型か、もしくは根元部のピッチをややふくらませた改変型で性能充分と考えます。石井流プロペラシステムでは、ゴム束6条用は直径26センチがスタンダードで、中級性能狙いではならピッチ直径比1.2。これより高性能狙いなら、もう少しハイピッチ寄りになります。

プロペラ素材は、ヒノキ、ヒバ、桐、バルサなど、木目よろしきものを選びいろいろな材質のものが使えます。いちばん軽量に仕上がるのがハードバルサですが(2.5グラム~3.5グラム)、典具帖など薄い和紙によるドーピング貼り強化を行う必要があります。

## <<性能のカベ>> 攻略その3

### C「上級性能のカベ」 上昇75メートル、滞空150秒について。

ここから景色が変わって、「スペシャル講座」のスペシャル部分に入ります。どこがスペシャルかといいますと、ライトプレーンの記事ではあんまり見かけない風景ですが、ライトプレーンを一丁前の空力モデルとして解析してみよう、空力新思考で扱ってみようという試みだからです。平素はフリーフライト村の番外地ぐらしをしているライトプレーンを、たまには空力ひろばに引っ張り出してみたらどうだろうか。こういうのをやりたがるのが小生の病気とかへきでして、やめとけよそんなこと、やはり野に置けレンゲ草。世間常識ではそういうものかも知れませんが。

#### 1、「空力」てなんだ？

たびたび出てくる「空力」というのは空気力学(エアロダイナミクス)の略で、平たくいうと自然大気のご機嫌うかがいです。ふつう実機でも模型ヒコークでも人間の作るもろもろの飛行物体は人間基準で造作されますが、あちらさん自然大気の都合はどうなんだと。人間基準で空力世界が押し渡れるものかどうか、あなた先方様の都合を考えたことがありますかと。

#### 2. ライトプレーンは空気抵抗のカタマリです。

つまりはこれが言いたかったわけで、空力の何のとゴチャゴチャ言ってきたのはこれが言いたいがための伏線でした。ライトプレーンは構成部材の大どころも小どころも裸で、たとえば装着ゴム束とか竹ヒゴ翼裏面とかが部材凹凸を残したまま空気流れに露出しているわけで、ライトプレーン性能問題はこのキャラクターを元に考えなければならない。フリーフライト機の性能基準はひと口にいつて揚抗比ですが、ライトプレーンでは部材露出が患いして、悲しいくらいに揚抗比性能がお粗末なのです。フリーフライト世界での揚抗比性能の優等生はというと、主翼のバカ長い国際級F1Aグライダーで揚抗比20ぐらい、ゴム動力のF1B級でも揚抗比15ぐらいはあります。ところがライトプレーンときは、劣等生もいいとこ、私見では上昇時におそらく揚抗比6ぐらい、プロペラ空転の滑空時にはもっと悪くて揚抗比5ぐらいと、もうお寒いかぎり。これより良い子ちゃんを見つけるのはむずかしく、これより悪い子なら探すまでもなくそこらへんにゴロゴロいます。自虐でいうのではありませんが、ライトプレーンが

空気抵抗のカタマリ というゆえんです。

揚抗比イコール滑空比ですから、揚抗比大といえば滑空の伸びが良いことだとは誰もが知っていますが、じつは上昇性能の良し悪しも揚抗比次第なんだということは案外に知られていません。機体重量が軽くてプロペラ引っ張り性能が良いのが上昇性能のキメ手だとお考えのムキが多いのですが、それが間違いだとはいわないまでも、重要ポイントを外しています。ゴム動力機の上昇はプロペラ推力と揚抗比性能の合作なのです。

わかりやすい例が国際級F1B機の上昇で、全機重量230グラムにゴム重量30グラムと、わずか13%のゴム搭載比率ながら、揚抗比性能にモノをいわせて上昇高度100メートルにも達します。ひきかえライトプレーンでは20%ものゴム搭載比率をもちながら、75メートルそこそこの上昇に四苦八苦というありさま。以上のことからズバリ言えることは、ライトプレーンの性能アップ策は機体の軽量化もさることながら、空力性能アップ意外にないということ。このことが解れば、具体的に何をやるべきかが見えてきます。

### 3、竹ヒゴ翼の明と暗

ふつう実機でも模型ヒコーキでも、設計・デザインの巧拙で性能良くなったり悪くなったりします。ところがライトプレーンに限っては前にも言ったように設計にウデの振りようはなく、たとえば他種目で高性能を得ている両面貼りハイアスペクト翼をライトプレーンに持ちこんで性能好結果が望めるかという、おそらく空振りに終わります。コンサバ(ガンコに保守的)といわれても、日頃見なれた竹ヒゴ片面貼り翼がいちばんライトプレーンにフィットしているものの如くです。

となればわが国独自文化ともみえる(欧米には竹文化はないとか)竹ヒゴ翼は案外に合理的といえるのかも知れず、しかし合理的にして性能お粗末とあつては救いがないようにも思えます。ところが良くしたもので、あちこち凹凸だらけの構造ラフさのゆえに、その構造ラフさが性能改善には取り柄ということがあります。

### 4、「神は細部に宿り給う」ということ

ライトプレーンにおいては、設計・デザインによる性能改善の妙法はありませんが、チマチマとした細部の部分改良で、1ミリずつ進む性能改善の道があるのです。1ミリずつでも1ミリがあまた積算されればチリもつもれば何とやらで(古いネ)、効果はバカになりません。バラック構造のライトプレーンでは紙貼り完成後でも改造工作が利くのが取り柄で、自作機ならぬ他作機の改造例では、初級機が中級機に、中級機が上級機に変身するぐらいは、いわせてもらえば日常茶飯事です。

おおかたのライトプレーンモデラーにいえることですが、自作機が完成したあとは飛ばすことのみ熱心で、ふりかえって自作機をチェックし直す熱意を欠くのがふつうに思われます。完成度自慢の上級種目機ならともかく、熟成度大甘なライトプレーンにこれはよろしくありません。熱意さえあればライトプレーンはいくらでも部分改良は可能で、「神は細部に宿り給う」とはそこをいいます。

たとえばテレビを見疲れたときや本を読み疲れたとき、もしくはヒマで何もすることがないとき、もっといえば夜半に目覚めてフトンの中でもいい、自作機を手にかざしてタテからヨコからナナメから観察する。そうすると、あらためて神経にひっかかる細部が必ず何箇所か見つかる筈です。何箇所どころか何10箇所かも知れない。もし何も見つからないとすれば、それはすでに性能上限に達した超高性能機か、それとも不具合箇所を見つける眼力が不足しているかのどちらかです。

以上、繰り返しになりますが、ゴム5グラム級ライトプレーンの性能アップ策は次の2点です。1点は誰もがそうしているように、極力軽量モデルに仕上げること。もう1点の本講座の眼目で、ライトプレーンを空気抵抗のカタマリと捉え、細部に手をつくしてムダな空気抵抗を排除すること。

図面別添。以下次号

## ■ HLG主翼前縁の接着前処理について

吉敷・・・⑩

久しぶりに吉敷さんが投稿してくれました。なるほど、言われてみると効果がありそうです。学者だよな・・・。

### 前略

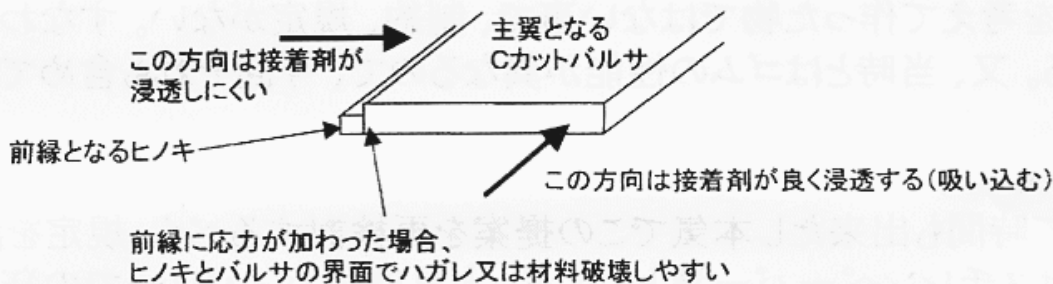
一応以下本文です。

大宮たんぽがシーズンオフ中ですが、私はぼちぼちHLGを楽しんでいます。最近「会報で技術情報が少ない」と言う噂がある様なので、またまたつまらない技術情報？ノウハウ？製作技術？を投書致します。

### HLG主翼前縁の接着前処理について

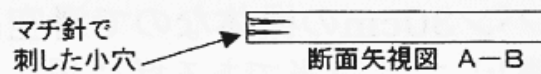
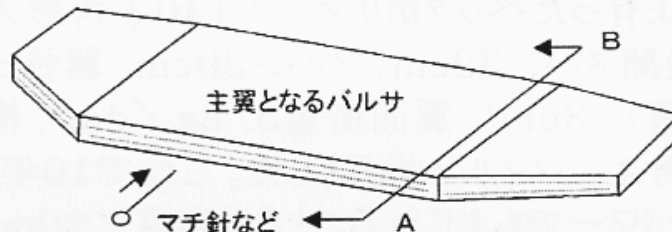
2005. 6. 3 吉敷

一般的にHLGの主翼はバルサソリッド主翼が主流で、翼型維持(イコール性能維持)、耐久性(機体寿命)や剛性UPなどから前縁にはヒノキ(2\*2~4\*4)を接着補強します。が、よく考えてみるとCカットバルサの木目と接着剤(作業時間短縮を考慮し近年はほとんど瞬間接着剤使用)の浸透性から接着前処理として、まち針などで小さな穴を明けてから前縁を接着するとアンカー効果も期待出来より一層パーフェクトな接着が出来るものと考えます。以下に簡単な図で説明します。

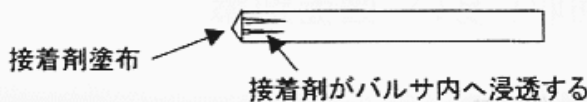


### 今回の情報

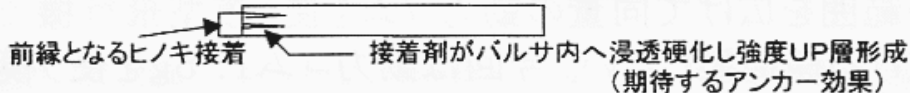
#### 手順①(接着前処理)



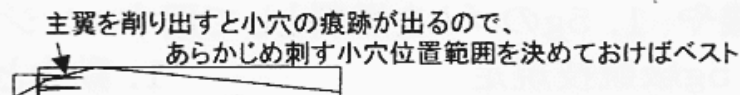
#### 手順②



#### 手順③



#### ワンポイントアドバイス



以上

## ■ せまい公園用小型ゴム動力機の研究・十

平尾・・・⑩

「ランチャーズ会報」2002年4月号で「(仮称)ランチャーズ・プレーン」の提案をした事がある。

- 規定案は
1. 搭載ゴムは1.5g以下とする。
  2. 一本胴の動力ゴム露出の機体である事
  3. プロペラは空転式とする。
  4. 1分マックス競技とする。

発表してすぐ内山さん、佐藤さんが作られた参考機を頂いた。それを飛ばしたところ、小さいが一般人が驚く程見事な上昇ぶりで、ベテランでも十分に楽しめる模型ヒコーキであった。個人的には、余りにもチマチマした模型ヒコーキは身体に良くないと考えているので、小さいヒコーキなら小さいなりに爽快感は必須である。この提案が参考となって平城京の5gライトプレーンが出てきた。

過去にこのクラスの模型ヒコーキは、どの様なものがあつたのか、大ざっぱに調べてみた。海外では幾つか参考になる図面があつたが、代表的なものとしては、ベックポリマーの「Peck-R.O.G」がある。機体名称にもあるとおり地上発進が基本であるが、バルサ組翼のスティックプレーンで作りやすく、少し華奢だが軽量である。スパン25cm、胴長24cm、推定機体重量6g、搭載ゴムの規定はなく1.3g程度が標準である。日本での1例としては「ムサシノ模型」の館林さんが「Uコン技術」78年7月号に発表されている「パーク・ライトプレーン」がある。これはスパン28cm、胴長30cm、機体重量8.5g、搭載ゴムは1.5g前後で、滞空性能は1分である。この機体は今回のテーマにそのままあてはまるモデルの1つである。

上記の2機種とも、せまい公園での飛行を目的としているが、今回のテーマとどこが違うか。その違いは「競技」を考えて作った物ではない事で、制約、規定がない。すなわち、搭載ゴム重量の制限がないのである。又、当時とはゴムの性能が異なるので、今回それも含めて再考した。

### 1. 機体について

最近になって時間も出来たし本気でこの提案を再検討するべく、規定を読み返して試作機を作ってみた。前はスチレンペーパー翼としたが、上昇時のハイパワーでの狂いや、スチレンペーパーなので翼が折れたりすると調整がやりにくい。今回はバルサ骨紙張り翼、胴は太めのバルサとした。プロペラはたまたま有ったベックポリマーの140φ角形プラペラを装着した。

機体の諸原は、展開スパン32cm、スパン30cm、翼弦6cm、胴長30cm、150φプラペラ搭載で完成重量9g、翼面積1.8dm<sup>2</sup>、翼面荷重5.8g/dm<sup>2</sup>、機体重量対ゴム重量比は約17%である。

被覆は耐候性を考えてフィルム貼りとした。これで10年は保つ。今回の機体はスチレン機より強度があるので、フルパワーでもよじれることなく素直に30m程上昇する。モーターラン約25秒、滑空で35秒を稼ぐと1分になる。スパン30cmの機体なので滑空はスカスカと降りてくるので1分は微妙な所であり、今回の滞空競技機としては適当である様に思う。フィルム張りだと様々な色が使えてなかなか綺麗で目立つ様に作れば回収し易い。図面別添

### 2. 新競技方法・「ゴム1.5g競技」の提案

今回、競技の範囲を広げて同量の動力ゴムを使う模型飛行機であれば何でもOK、同一条件と考えて参加を広げる様提案したい。今回は動力ゴム1.5gを使う模型飛行機は全て包括す

る競技の提案である。例えば ①スティックプレーン ②PLG(パチンコ) ③ヘリコプター ④その他(例として被覆胴機や、1.5gのゴムを燃料として廻すエンジン機等?)

#### (案) ゴム1.5g級競技規定

1. 動力としてゴム1.5g以下を使用する。

2. 機体機種は自由とする。

3. 1分マックス競技とする。

動力が同じであれば、取得高度は、ほぼ同じ筈である。そこで1.5gクラスは全種目、一括で競技してはどうだろうか。パチンコとプロペラ機は、機体の大きさも重量もほぼ同じであるし、耐空性能も互角の様に思う。ゴム動力ヘリコプターの場合は滑空はほとんどしないので、モーターランで稼ぐ様上手に設計する必要がある。被覆胴機は軽量のピーナツスケールが当てはまると思うが、ゴム重量1.5gが条件となると、ややきびしいか。その場合は、この種目専用の機体を設計すれば良い。ま・得意不得意によって、各人が機種を選べるのが良いと思う。当分の間はパチンコとスティックプレーンが勝つと思うが、その内に高性能被覆胴機が出現するとおもう。こうすれば、参加者も増加し、今後は高齢化も進むので、何でも持ち寄って手軽に楽しむ方法として提案したい。ぜひ、ご意見を伺いたい。いつも言い出すだけで終わりになってしまうが、今回はガンバル!!!

### ◆ 雑談天国

#### ◆ 後期高齢者の諸対策

平尾・・・⑩

##### 1. 人間・マーキングのすすめ

ヒコーキ人間も年を取るにしたがって、みんなに少しでも心配をかけない様、気を付けるべき事項が増えてくる。一緒に飛ばして、いつの間にか居なくなったりすると心配である。そのたびに辺りを見回して、近くにいないと双眼鏡で調べて、それでも解らないと他の人に聞くはめになる。

この間の事、ある人のヒコーキが道路から15mの程離れた芦の上に着陸。ところがそこは池の中で近づいてみると結構深い。一応の確認をして本人は回収に向かった。しかし、1時間経っても帰ってこない。心配になって探してみると、水路の向こう側の比較的浅い芦原を反対方向にうろうろしている。芦の背が高いので、てっきり目標を見失ったのではと、助っ人に行く事にした。

しかし、ヒコーキの所に行くには、ほぼ腰まで水に浸かる。しかも、その水は腐っていて臭いので、まず靴下を脱いで、ポケットの中身を全部出して、且つ、ベルトも外し準備OK。過去に或る人はパンツまで脱いで入って、ガマガエルにサキッコを噛まれそうになったとか。

さて、ヒコーキに最短の場所まで行ってみると、ちょうど運良く迷子のヒコーキにたどり着いた様で決行中止となった。後で聞いてみると、水の浅い所を確認するために、ウロウロしていたとの事。

自分もそうなった場合の事を考えて、服装は見てくれが派手な赤系統が望ましい。これだと近くは無論、遠くにいても解りやすいし、例え、行き倒れになっても発見しやすいので、年を取るにしたがって服装は派手にすべきである。しかし、服装は全部赤ばかりともいかず、たまには地味なのを着る事もある。それ用の対策が必要である。

そこで完璧を期するならば、思い切って髪を赤、橙色、桃色等染めると目立つこと請け合いである(禿げ頭の事は別途考えたい)。近い将来勇氣あるモケイ人が現れて、オレンジの髪の老人が大宮に出現したからといって、驚かないで暖かく迎えて欲しい。これも時代の流れ、時の必然なのだから……。しかし家族が反対するだろうなあ……。女房は賛成するかナ。

## 2. 迷子札・改

次に迷子札の件である。全国的に1人住まいの孤独な老人達が増えるに従って、各自治体は名前札を必ず携帯する様に勧めている。どこかでストーンと倒れた場合、ボケの本人も含めて、何処の誰か解かる様にするためである。気の利く人はその中にお礼の費用も入れていると聞く。

模型ヒコーキには、現在は迷子札がほとんど付いている。しかし、降りた場所が悪いと全く連絡が無い事が多い。そこで、最近では小型発信器を搭載する機体が増えてきた。

当然ながら、徘徊人間用送受信器も売っていて、これはやや重く20～120g程度あるが、電波が強く町中でも位置の確認が出来る。しかし、値段が高く(10万円超)、且つ、まだ元気な自分には必要ないと考える向きが多いが・・・。

そこでまだ人間用発信器には抵抗がある我々としては、暫定的な方法として、迷子札を模型ヒコーキと人間兼用で考えるのが合理的経済的であると気が付いた。そこでヒコーキの迷子札に、本人が迷子になった場合用を考えた表示をしたらどうであろうか。

機体表示は「この機体を発見した方は、下記にご連絡ください」等々の文が多いが、自分本人を含めた場合は、この文をどう変えるか・・・・。むむむむむむ。

## 3. 家庭内でも失業しないために

仕事をしなくなると、ほぼ1年。それまでの生活と方式を変えるのには時間がかかる。収入が減少する事とは別に、時間配分が大きく変化するのが問題である。

男の大部分は「仕事」が無くなって困ってしまい、ヒコーキ飛ばしの時間がドンドン増えるだけでは、家族は納得してくれないし、それは間違っている。

会社生活が無くなったからと言って「仕事」が無くなるわけではない。老後は夫婦2人とも家庭外の仕事は無いのだから、家庭内の仕事はそれぞれ1/2をこなす様にするのが当然である。これは人間は全て自由平等で自分は男尊女卑でないと考えている人の当然の在り方である。

ところが、これが実はナカナカ出来ないのだが・・・・。より恐ろしいのは、モタモタしていると「家庭」でも完全失業する事である。そうならない為には、完全退職すると同時に、家庭内の自分の仕事を確保する必要がある。女房の持っている仕事の内から、自分が出来そうな、好きな仕事、楽で見栄えが良い作業を取り上げる。これが巧く行くと、家庭はすえ永く楽しく過ごせる。

私が選んだのは、①ヒコーキ飛ばし、②掃除全般、③洗濯物干し、④食後の後かたづけ、⑤力仕事他である。朝食、昼食は各自が勝手に作る様になっている。

周りを見回してみると、さすが模型人！！ 出口さんも相沢さんも料理得意と言う。考えてみると、何時でもヒコーキ飛ばしに行ける様に、炊事洗濯何でも出来ない模型ヒコーキはやっていけない趣味ではある。私の場合、炊事も一部やるがそれは限られている。本当は技がともなわないので、自信がないのである。炊事は今後の課題としても、ある程度やると女房殿も機嫌良く毎日・美味しい物を作ってくれるし、威張ってられる。

## 4. パン

私は食事では朝食が一番好きである。ゆっくり起きて、のんびりした朝食のコーヒーが何とも言えず旨い。これから、余り変化は無いが楽しい1日が始まると思うと、心和む一時である。又、私はパンが大好きである。海外に行った時も日本食に未練はなく、パン、肉とウインナーがあれば、ご機嫌であった。又、向こうのパン(イースト菌の)は何て事はないのだが旨いのである。ユーゴーの時は、毎朝、村の小さなパン屋にかよった。広さは6畳程度、そこに天井までパンとバター、ミルク、ジュース等が積んであり、朝6時頃から開いていたので便利であった。選手団はみんな、毎朝そこに寄っていたが、目移りする程様々なパンを売っていた。競技も終わりの頃になると、地元の人がこれは旨いよとか、これを買えとアドバイスしてくれた。

又、値段はバカみたいに安かった。

私は高校の頃から朝はパン食である。若い頃はコーヒー、トーストに目玉や、カリカリベーコン、コーヒー、果物が毎日であったが、年を取るとコーヒー、トースト、ヨーグルト、果物になった。量がなくなってきたからである。

今年の退職してからこだわったのが「美味しいパン」である。最近では、運動がてら自転車で遠くまで行って、アンデルセンのパンを買ってくる。値段は一斤250円程度なので普通である。

なら、うまいパンを食べたい。アンデルセンのパンは何が違うか、トーストに焼いてみて気が付いたのは、「バター」の味が良くわかる事である。それと、焼いてバターを塗ると見事にバターが溶けるのである。不思議な事であるが、スーパーなどで売っているパンはバターが溶けきらない。その原因としてはパンの中の空気泡の過多、繋がり等々のためかなと思っている。多分、パン生地作り方と焼き方が原因であろうと推定する。

パンを変えた事によって、寝る前から翌日のパンを食べるのが楽しみになった。アンデルセンのイギリスパンは、コーヒーの味は無論の事、バターや野菜、ハムの味が実に良く解る。最近愛用している「長時間発酵ブレッド」はそれだけで素晴らしく旨いのである。まずいパンの場合、口の中にゴソゴソと残って、飲み込むのにコーヒーがいるのと較べると大違いである。パンが旨いとなるとパンだけを食べたくなる。ベーコンもジャムも要らなくなるのだから不思議である。ところで貴方は何者？当然ながら、アンデルセンの回し者である。

## 5. コーヒー

大して経験してる訳ではないが、外国のコーヒーはお国柄があり、それぞれ旨かった。模型飛行機大会でいったオーストリー、ハンガリー、ユーゴとそれぞれ味に差があり旨かった。仕事で行った東南アジアのは泥臭かったがやはり旨かった。それに較べると日本の喫茶店のものは高い上に、不思議な程まずいがあるが、なぜか？モ・・・。

毎朝、コーヒーを入れるのは私の仕事である。パーコレーター式もあるが、私はドリップ式の方が好きだ。紙フィルターを使った簡易ドリップ式という方法はドイツのメリタが元祖であるが、こし器の穴が1つなのが気に入らない。まがい物の様に言われるが、カリタの物は同じ様なこし器だが穴が3個と多い分、あっさりしたコーヒーが入るので愛用している。

美味しいコーヒーを入れたいと思い、ドリップコーヒーの入れ方をインターネットで調べた。その入れ方でやってみたが、どうも巧く行かない。ネットに載っている方法は大部分が凝り性の入れ方で、ほとんどが豆を挽く事からはじまっている。挽きたての豆で入れると、熱湯を入れて30秒もすると粉がプックリと脹らんでくると言う。ところが私は挽いた豆を買っている為か、どうやっても脹らまないのである。そこで工夫して自分流で入れる事にしている。

熱湯を入れて20秒程蒸らして、その後もう一度熱湯を少し入れて薄茶色の泡が出たら、後はドンドン湯を注ぐ方法である。本格式との差は解らないが、これで満足する事にしている。より良い方法があれば、ご指導アレ。

さて、挽いた豆の値段であるが、一般的な価格としては400g 600円前後が多い。コーヒー一杯入れるのに10gは必要なので、これだと一杯15円になる。安い方では、スーパー等のバーゲンでは400g 400円で買えるが、これで10円になる。計算してみると、うんと贅沢しても1杯30円程度であり、年間で約3,700円から11,000円の差となる。しかし、わずか年7,300円、月にすると約600円強の差で旨いコーヒーが飲めるとなれば、残り少ない人生だし、旨くて香りも良いコーヒーを飲む方が人生楽しそうである。

## ▼ 編集後記

⑪

最近、機関誌の廃止を心配してか、盛んに誉めてくれる人がいるのは有難い。書いている方



は何を書こうかと、毎日、まいにち考えて日が暮れる。とくに、雑談天国の項などは、書き始めては、巧く行かなくて途中で止めた原稿がしだいにたまってきた。いつか使えるかと思ってとってあるが、一度ボツになった物は、後々も使えない物が多い。それよりもっと、心配の種は機関誌・ランチャーズ事務局の後継者探しである。私もせいぜい頑張っただけ5年だと思っただけで、ダンダン気になってきた。私もこれを続けて25年、ようやく慣れてきたところである。自信なんか無くて結構なので、やりたい人は申し出てください。

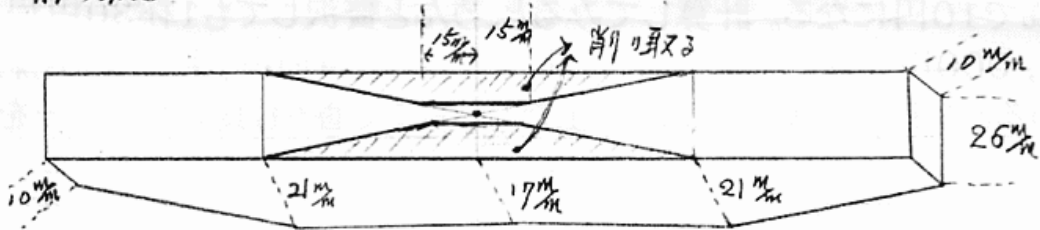
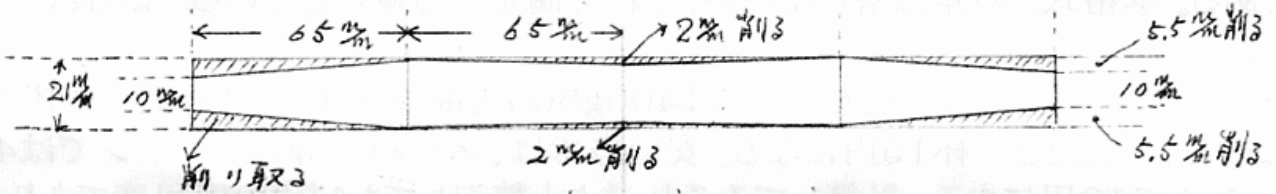
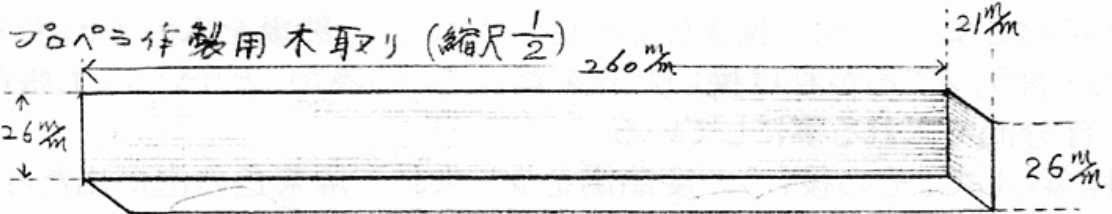
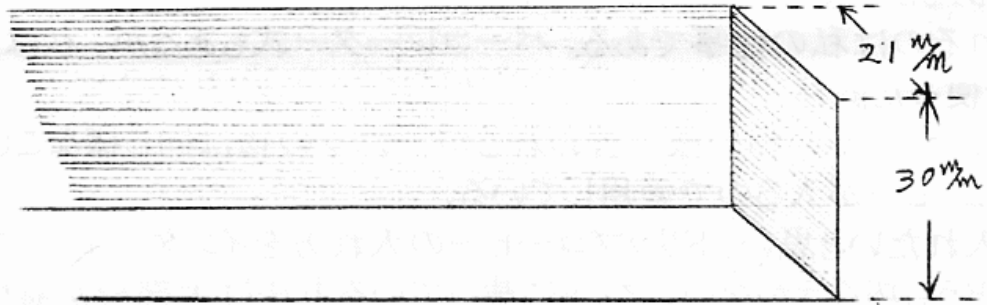
- ◎ 5グラム級ライトプレーン講座・参考図面
- ◎ 5グラム級ライトプレーンのプロペラ設計図
- ◎ 5グラム級ライトプレーンの機体設計図

プロペラ

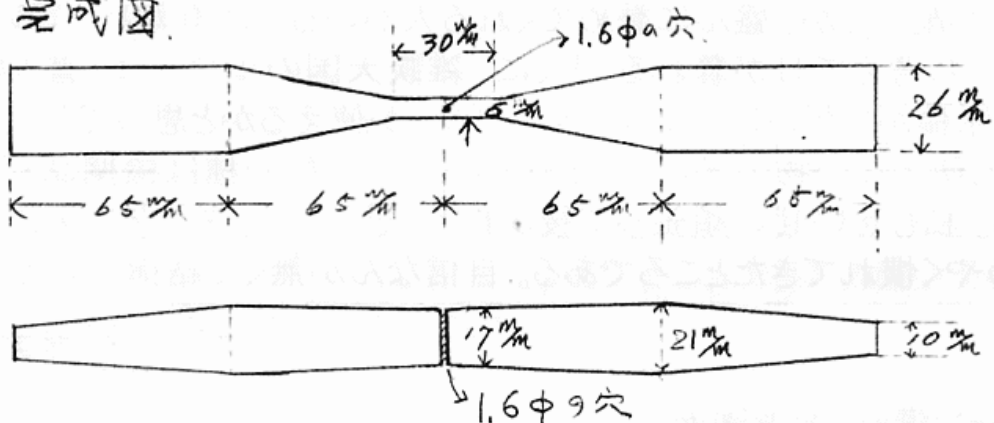
( 重量 --- 5.0g )  
 ( 条数 --- 6 )

材料 米ヒバ (市販品で巾30mm厚さ21mm長さ900mm)

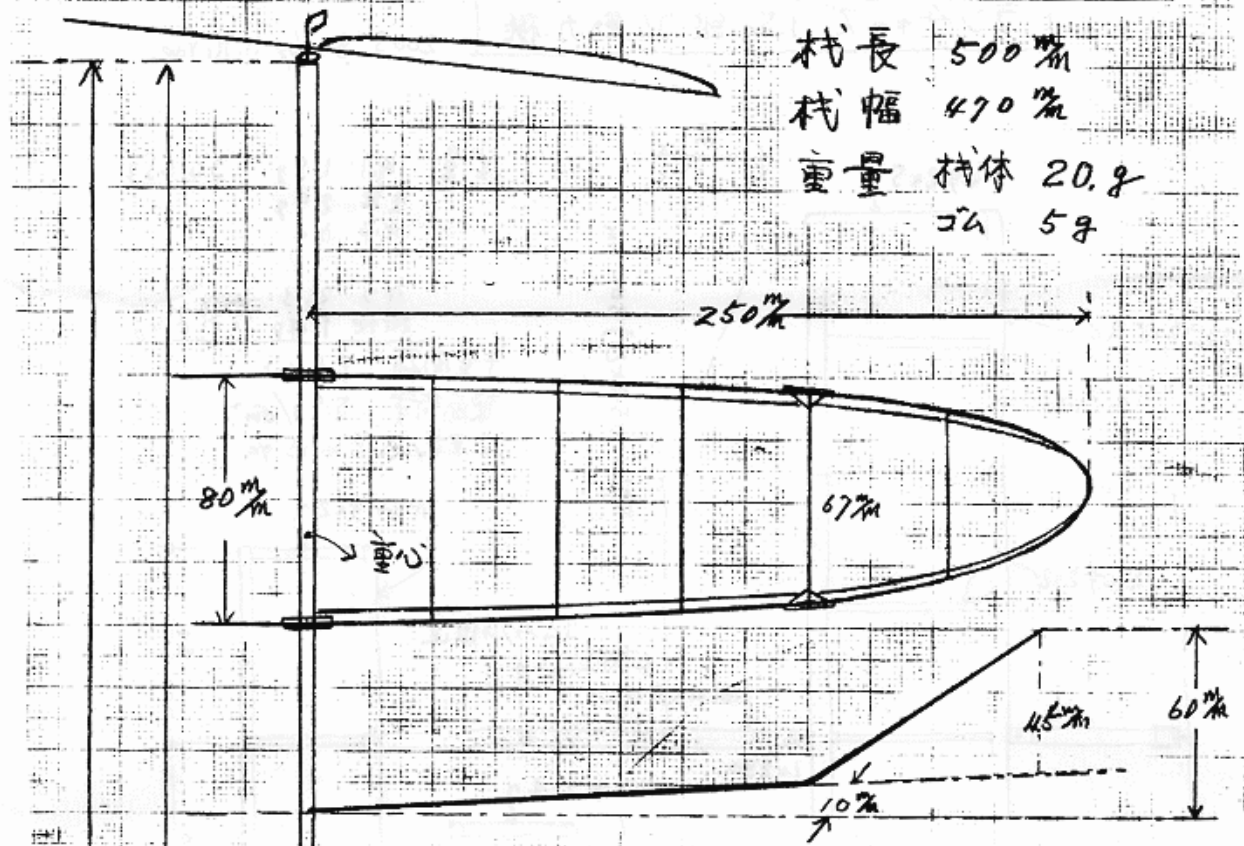
材質は: 色白で木目間隔が狭く, 下図の様に木目は直角に近い程良い。



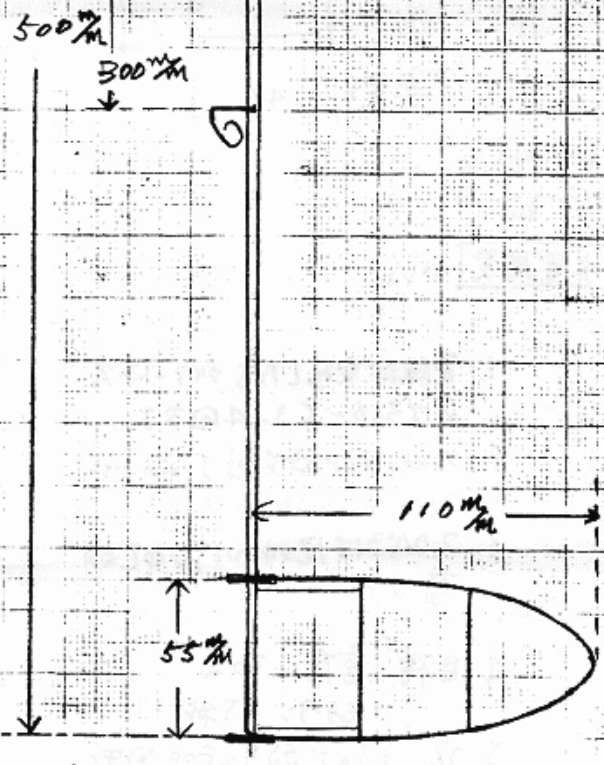
木取完成図



ライトプレーン ゴム重量 5g級

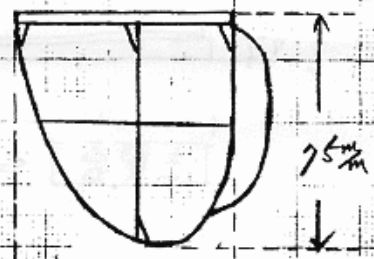


机長 500mm  
 机幅 470mm  
 重量 机体 20.8g  
 ゴム 5g



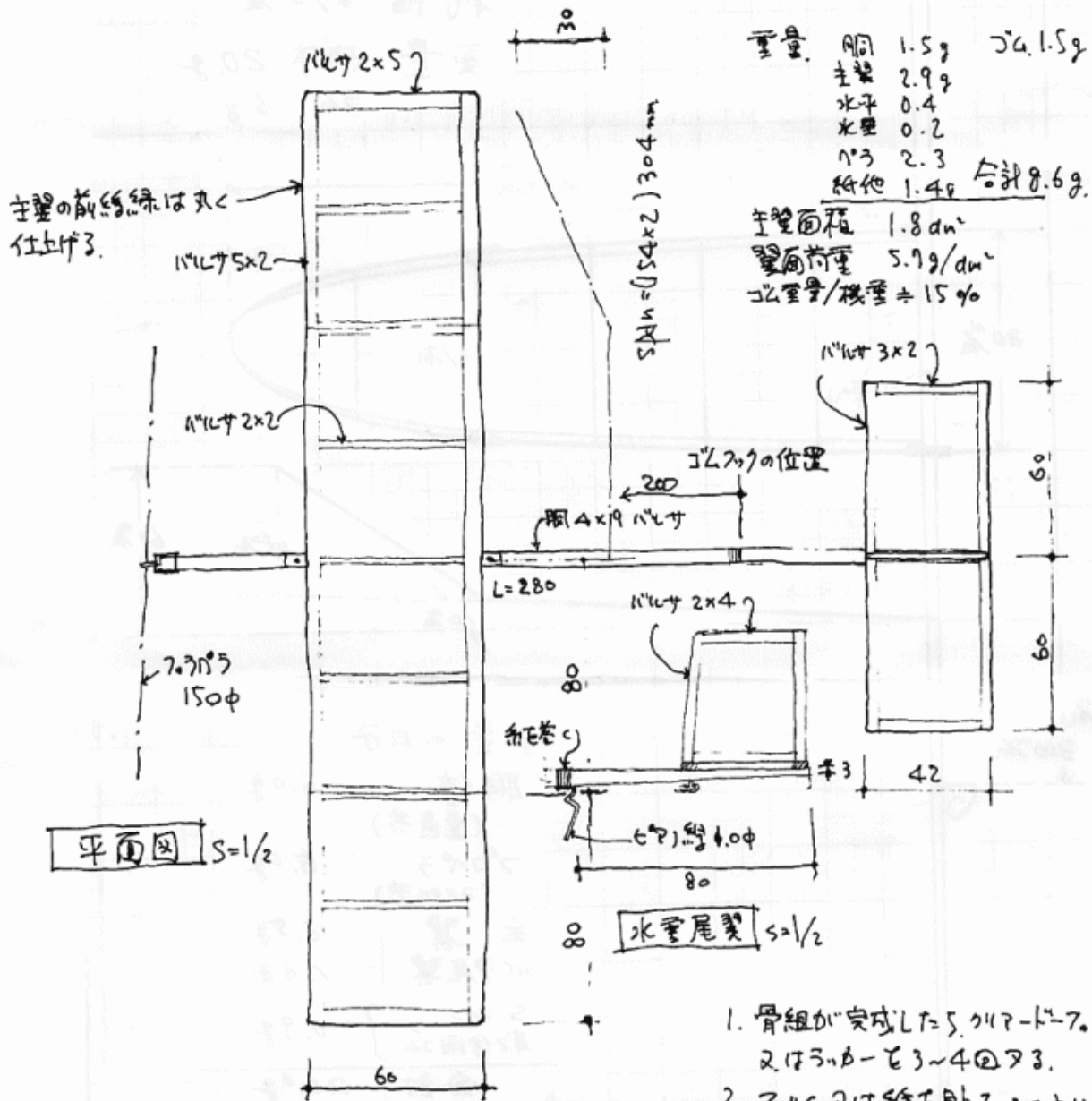
重量の目安

|              |       |
|--------------|-------|
| 胴体 (量直共)     | 6.0g  |
| プロペラ (コキル共)  | 5.0g  |
| 主翼           | 6.5g  |
| 水平尾翼         | 1.6g  |
| Sカン<br>取付用ゴム | 0.9g  |
| 合計           | 20.0g |



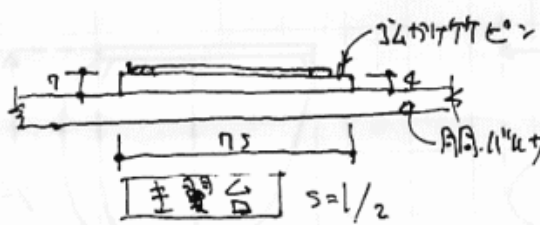
ランチャーズ・1.5g 級 ジム動力機

2005.8. by H. Hirao.



平面図 S=1/2

水重尾翼 S=1/2



- 骨組が完成した5. ユーパート-7. 又はランナーを3~4回回す。
- フィルム又は紙を貼る。その上には ユーパートを2~3回回す。
- 7.0mm径120mm~150mm程度の筒を 整す。
- 目標 高度 30m.  
飛行時間 25秒。
- ジム 1.5g程度の9~800回転。